決算説明資料

2027年3月期
第1四半期

2026.7.29 アイザワ証券グループ株式会社 証券コード:8708

アイザワ証券グループ

Agenda

サマリー P 2

KPIの進捗状況 P17

トピックス P20

本資料に関して

本資料は、2027年3月期第1四半期決算の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。
本資料は2026年6月末日現在のデータに基づいて作成されております。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

企業理念

Purpose
私たちの存在意義

より多くの人に　より豊かな生活を

Vision
私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとそのご家族の人生の伴走者となる

Values
私たちが大切にする価値観

チャレンジ / リレーションシップ / プロフェッショナリズム / チームワーク

PVVイメージ動画

PVVのイメージ動画をアイザワ証券グループホームページに掲載しております。
https://www.aizawa-group.jp/company/pvv.html

アイザワ宣言

お客さまへ
私たちはお客さまの未来を見据えた
金融サービスを提供します

株主の皆さまへ
私たちは持続的な成長を通じて
企業価値向上に努めます

社会へ
私たちは地域との繋がりを大切にし
社会の発展に貢献します

従業員の皆さんへ
私たちは社員一人ひとりを尊重し
成長と挑戦を後押しします

2027年3月期1Q

エグゼクティブサマリー –［連結］

アイザワ証券グループ

営業収益	親会社株主に帰属する純利益	ROE
5,812百万円	1,054百万円	8.8%（27年3月期1Q利益を年率換算）
前年同期比：＋37.0%	前年同期比：＋730.4%	前期比：＋2.8pt

ストック商品預り資産	総預り資産	実質ストック収益[※1] 実質販管費[※2]カバー率
6,792億円	2兆6,170億円	39.8%
前年同期比：＋45.2%	前年同期比：＋24.8%	前期比：＋4.2pt

※1 実質ストック収益：信託報酬とラップ報酬の合計額から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料分を除外した収益額
※2 実質販管費：アイザワ証券の販売費・一般管理費から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料を除外した額

社長メッセージ

当社は、**証券事業の変革**というきわめて大きな改革を実行しており、**「お客さまとそのご家族の資産運用・資産形成の伴走者」**となることを目指し、お客さまのライフプランの実現に向けて長期にわたり伴走支援する**ゴールベースアプローチ（GBA）型営業**を推進しております。相場環境に左右されにくい安定収益の確保に努め、**安定的に連結ROE8%以上を達成できる収益構造への転換**を図っております。
中期経営計画の2年目を迎え、前期に一部の店舗にて試行段階であったGBA型営業は、当期より本格的に全店へと展開し、お客さまとそのご家族とのリレーションの深化に努めております。当社は**GBA型営業への転換にもっとも多くの時間を割くことが、将来的な企業価値の最大化につながる**と信じて取り組んでおります。結果として、安定的な収益基盤となる**ストック商品（投資信託とラップ商品）預り資産は2026年6月末時点で6,792億円となり、前期（2026年3月期）末比1,152億円増（＋20.4%）と大幅に増加**しました。
業績面では、証券事業は上記のような変革の途上にありながらも、相場の追い風もあり約5億円の営業利益を確保しました。また、政策保有株式の売却や投資事業における投資有価証券の売却により特別利益を計上した結果、**親会社株主に帰属する純利益は10億54百万円**となりました。
前期はGBA型営業の取組みが実を結び、当初の想定を上回る成果を収めることができました。この成果を確かな礎として、中期経営計画の2年目となる当期におきましても、**中長期の収益拡大に向けて改革を更に加速させ**、ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えするべく、企業価値向上に全力を注いでまいります。

資本コストや株価を意識した経営

アイザワ証券グループ

資本コストを安定的に超える利益を計上できる事業構造へ変革することで企業価値向上を目指す
毎年度のROE水準を意識すると同時に、安定的にROE8％以上を達成できる事業構造・収益構造への変革を行い、中期的な企業価値向上を目指す方針

企業価値の向上に資する各種施策

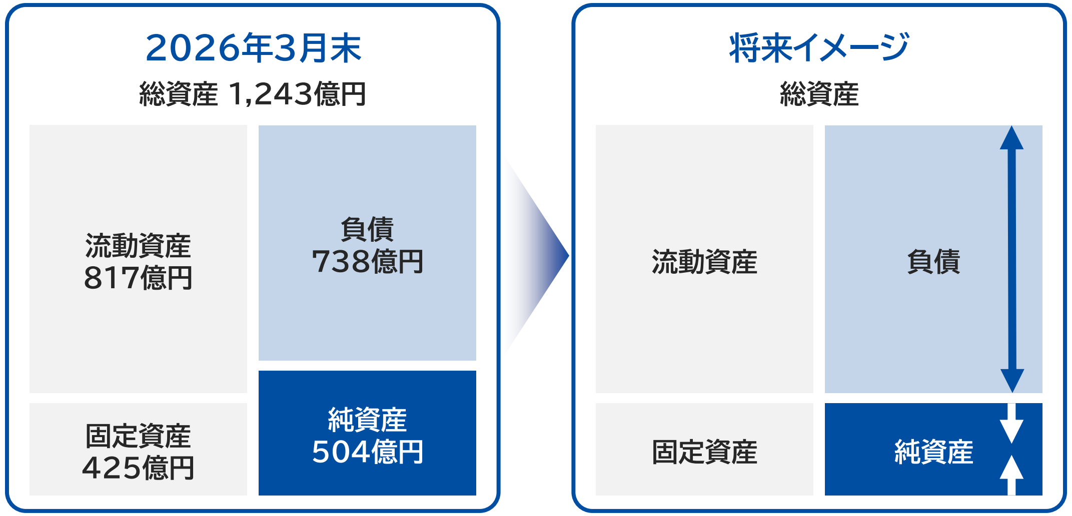
PBRの向上（企業価値の向上）

ROE向上施策×PER向上施策

- 証券事業の変革
- 株主還元策
- 投資事業のグレードアップ
- IR強化
- 運用事業の再構築
- 人的資本投資への取組み強化
- 生産性の向上
- サステナビリティ推進
- コンプライアンスの強化
- リスク管理の強化

財務戦略

連結貸借対照表



財務レバレッジの活用	財務レバレッジの活用等による資本効率重視の財務戦略を実行し、効率的な事業運営を行う。
社債の発行	財務安定性の向上を企図し、将来の成長に必要な資金を機動的に調達することを目的として社債を発行。2026年6月末時点で残高121億円。

中期経営計画(2025年4月～2028年3月)の基本方針

「お客さまとそのご家族の資産運用・資産形成の伴走者」としてのビジネスモデルを確立し、
安定的にROE目標を達成できる事業構造・収益構造に転換する3年間と位置付ける

アイザワの目指す「伴走者」とは

お客さまとそのご家族の資産運用・資産形成に関して、継続的にお話を傾聴し、それぞれのライフステージに合った提案・アドバイスを送り、世代を超えて対話を続ける、**長期にわたる人生のパートナー**です。

環境認識

「対面による継続的対話・アドバイス」へのニーズの高まり

- 「貯蓄から投資へ」の大きな流れにより、個人の資産運用・資産形成の関心が集まる
- 長期目標に対して、**対話による継続的アドバイスへのニーズ**が高まっている

中期経営計画（2025年4月～2028年3月）

事業構造・収益構造の転換

- **「ゴールベースアプローチ型」営業と「地域密着」**を徹底することで「継続的・長期的にお客さまに寄り添う」価値を提供
- 毎年度の利益水準に注意しつつ、**中期的な企業価値の向上を最優先**

当社が目指す将来の姿

資産運用・資産形成を通じてお客さまとそのご家族の人生の伴走者となる

- 長期にわたる人生のパートナーとして、**お客さまとそのご家族の人生の伴走者**となる
- 市況に左右されない、安定的な経営体制を実現し、**安定的にROE目標を達成**

事業構造・収益構造の転換 ゴールベースアプローチ型営業の推進①

ゴールベースアプローチ（GBA）型営業の徹底

「お客さまとそのご家族の資産運用・資産形成の伴走者」となることを目指し、お客さまとご家族との強固なリレーションを構築

- GBA型営業を通じて、ストック商品（投資信託とラップ商品）の残高積上げに注力し、相場環境に左右されにくい安定的な収益構造の実現を目指す
- 「お客さま本位の業務運営」と親和性の高いGBA型営業を実践することで、国が推し進める「貯蓄から投資へ」の流れを後押し
- GBA型営業を通じて、アイザワ宣言（お客さまへ）を実践していく

アイザワ証券が目指す

ゴールベースアプローチ（GBA）型営業 とは

- お客さまのライフプランに寄り添い、お客さまごとに達成したいゴールに向けたプランをご提供
- 個別売買にとどまらないトータルサポートで資産運用・資産形成を伴走支援

投資の目的	• 将来の計画やライフスタイルの実現に向けたゴールの達成
アイザワ証券の提供価値	• ゴール達成のためのプラン提供 • ライフプランに沿ったトータルサポート • ゴール達成に向けたサポート・フォロー • ソリューションサービスの提供
お客さまとの関係性	• お客さまのライフプランに寄り添えるようなリレーション

アイザワ宣言（お客さまへ）の実践へ

私たちは、お客さまの未来を見据えた金融サービスを提供します

お客さまとそのご家族が資産運用・資産形成のゴールを実現するまで寄り添います。

継続的にお客さまとそのご家族と対話することで、長期にわたるパートナーとなります。

お客さまからの信頼を最優先に考え、目先の利益を追求する取引・提案をしません。

事業構造・収益構造の転換 ゴールベースアプローチ型営業の推進②

アイザワ証券グループ

ゴールベースアプローチ(GBA)型営業を2026年4月より全店舗で推進

2025年4月から一部の店舗にて試行段階であったGBA型営業は、2026年4月より「アイザワ証券におけるスタンダード」として全店展開

- 「ヒアリング」は、お客さまの家族構成や資産状況、価値観等お客さまを深く知るプロセスであり、アイザワ証券のGBA型営業では重要なプロセスと位置付け、お客さまとそのご家族とのリレーションの深化につなげる
- GBA型ラップサービス「スマイルゴール」とGBA型投資信託ポートフォリオ「α(アルファ)ポート」※1の成約プロセスの適正性を厳格に審査・承認し、質の高い案件の積み上げを目指す

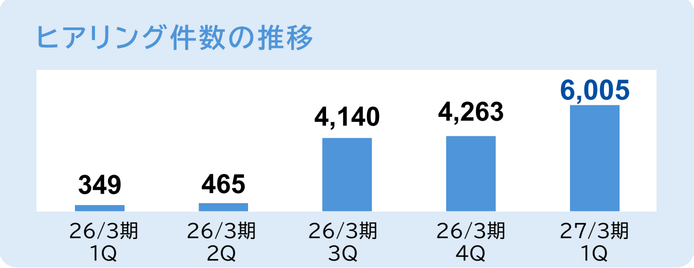
※1:「α(アルファ)ポート」とは、お客さまのゴール達成にふさわしいと考えられる複数の投資信託の組み合わせ(ポートフォリオ)を提案するサービス

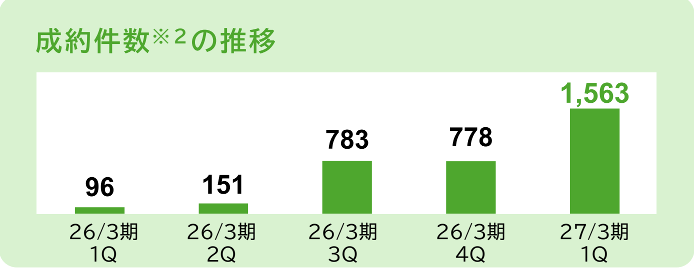
GBA型営業のプロセス

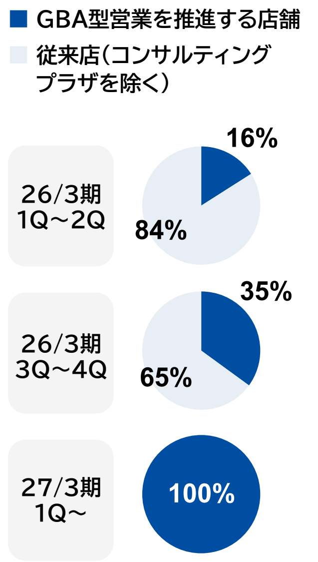
GBAプロセスとはお客さまとご家族の人生目標実現のために以下の4つのステップを循環させ、伴走することである。

- ヒアリング
  お客さまを深く知る
- ゴール導出
  お客さまとご家族の人生目標を明確にする
- ファイナンシャルプランニング
  人生目標実現の道筋を明確にする
- 継続的なフォロー
  お客さまの人生設計変化へ柔軟に対応する

ヒアリング件数と成約件数の推移







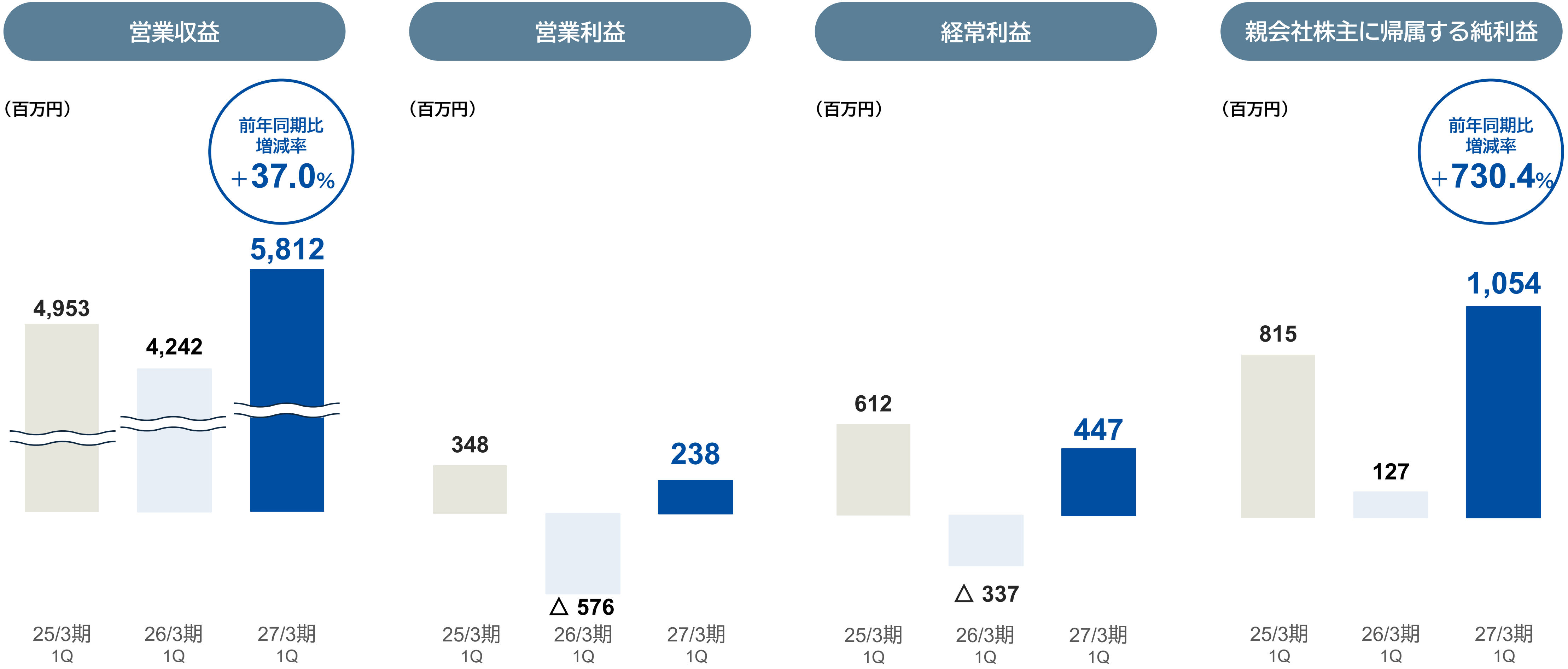
※2:「スマイルゴール」及び「α(アルファ)ポート」の成約のうち、地域統括責任者によるプロセスの適正性の承認件数

2027年3月期1Q

決算概要(過去同期比) – [連結]

アイザワ証券グループ

- 営業収益は、株式委託手数料や信託報酬、ラップ商品の成功報酬の増加により、前年同期(２０２６年３月期１Q)比３７.０％増収
- 営業利益は、営業収益の増加により黒字転換し、２億３８百万円
- 親会社株主に帰属する純利益は、特別利益(投資有価証券売却益)の計上により、同７３０.４％増の１０億５４百万円



2027年3月期1Q

決算概要(四半期推移) – [連結]

アイザワ証券グループ

- 営業収益は、前四半期（２０２６年３月期４Q）比７.１％増の５８億１２百万円
- 販売費・一般管理費は、同５.３％増の５４億４４百万円
- 営業利益は、前四半期の赤字から黒字転換し、２億３８百万円
- 親会社株主に帰属する純利益は同５５.９％増の１０億５４百万円

(百万円)	26/3期 1Q	26/3期 2Q	26/3期 3Q	26/3期 4Q	27/3期 1Q	26/3期 1Q比 増減率	26/3期 4Q比 増減率
営業収益	4,242	5,695	5,609	5,426	5,812	+37.0%	+7.1%
販売費・一般管理費	4,575	5,097	5,033	5,172	5,444	+19.0%	+5.3%
営業利益又は営業損失(△)	△576	349	319	△66	238	―	―
経常利益又は経常損失(△)	△337	446	498	59	447	―	+656.4%
税引前利益	388	1,172	1,462	1,132	1,297	+233.7%	+14.5%
親会社株主に帰属する純利益	127	873	1,075	676	1,054	+730.4%	+55.9%
1株当たり四半期純利益(円)	4.09	28.04	34.54	21.70	33.82	―	―

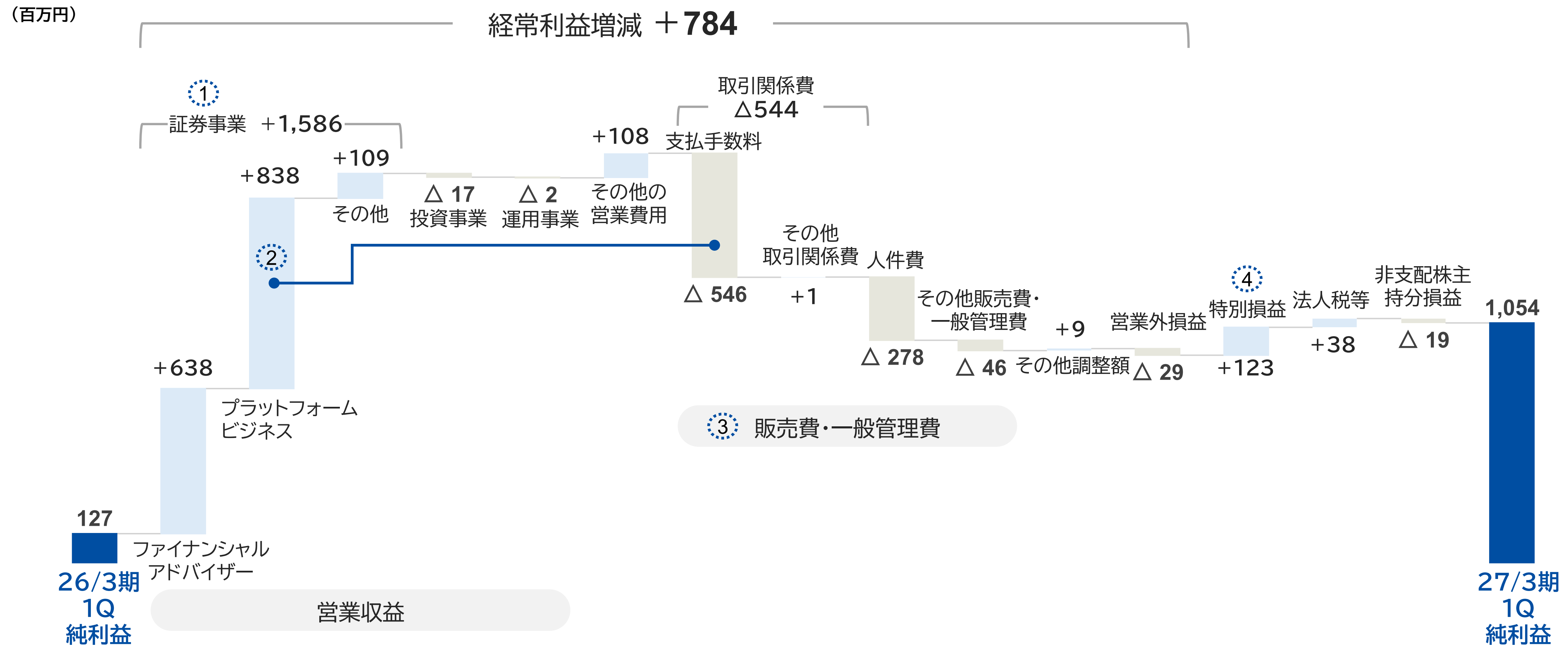
2027年3月期1Q

純利益 増減要因-［連結］

アイザワ証券グループ

- 証券事業の営業収益は、株式委託手数料や信託報酬、ラップ商品の成功報酬の増加により、前年同期（2026年3月期1Q）比15億86百万円増加・・①
- 証券事業のプラットフォームビジネス※の拡大により営業収益が増加し、費用面では支払手数料が増加・・②
- 販売費・一般管理費は、人件費や支払手数料の増加等により、同8億69百万円増加・・③
- 政策保有株式や投資事業における投資有価証券の売却益等により特別損益が増加・・④

※プラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者（IFA業者）や預金金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス



決算概要（事業別）

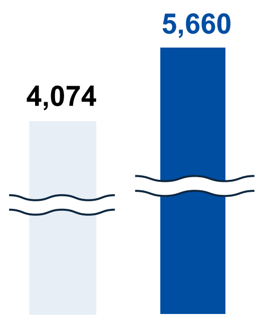
	営業収益	税引前利益	
証券事業 お客さまの資産形成をサポートするため、資産運用コンサルティング等を行う	5,660百万円 前年同期比 ＋38.9%	474百万円 前年同期比 -%	● 株式委託手数料や信託報酬、ラップ商品の成功報酬が増加したことにより営業収益増加 アイザワ証券 / LIFE DESIGN PARTNERS CO., LTD. / JSI
投資事業 有価証券、不動産、成長企業に対して自己投資を行う	150百万円 前年同期比 △10.6%	574百万円 前年同期比 △23.0%	● 投資有価証券の売却益（特別利益）5億42百万円計上 アイザワ・インベストメンツ株式会社
運用事業 機関投資家を中心にオルタナティブ運用等の運用サービスを提供	40百万円 前年同期比 △5.6%	△65百万円 前年同期比 -%	● ファンド費用の計上により赤字 業績改善のため運用残高の増加を図る あいざわアセットマネジメント AIZAWA ASSET MANAGEMENT
グループ本社・その他	△38百万円	314百万円	● 持株会社（アイザワ証券グループ株式会社）における収益（政策保有株式の売却益等）・費用及びセグメント間取引消去
グループ連結計	5,812百万円 前年同期比 ＋37.0%	1,297百万円 前年同期比 ＋233.7%	アイザワ証券グループ

証券事業

お客さまの資産形成をサポートするため、資産運用コンサルティング等を行う

アイザワ証券
LIFE DESIGN PARTNERS CO., LTD.
JSI

営業収益



税引前利益

（百万円）	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年同期比 増減率
営業収益	4,074	**5,660**	+38.9%
├ ファイナンシャルアドバイザー	2,849	**3,488**	+22.4%
├ プラットフォームビジネス	1,043	**1,882**	+80.4%
└ その他	181	**290**	+60.4%
税引前利益	△227	**474**	-

ファイナンシャルアドバイザー部門

ゴールベースアプローチ（GBA）型営業への転換を行っている証券事業変革の本丸

- 総預り資産及びストック商品（投資信託とラップ商品）預り資産が増加
- ストック商品預り資産増加により、信託報酬やラップ報酬が増加
- 好調な相場環境の影響もあり、ラップ商品の成功報酬が増加

▸信託報酬と成功報酬についてはP.29をご参照ください

プラットフォームビジネス部門（金融機関連携、IFA）

プラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者（IFA業者）や預金金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス

アイザワ証券のプラットフォームビジネスの戦略

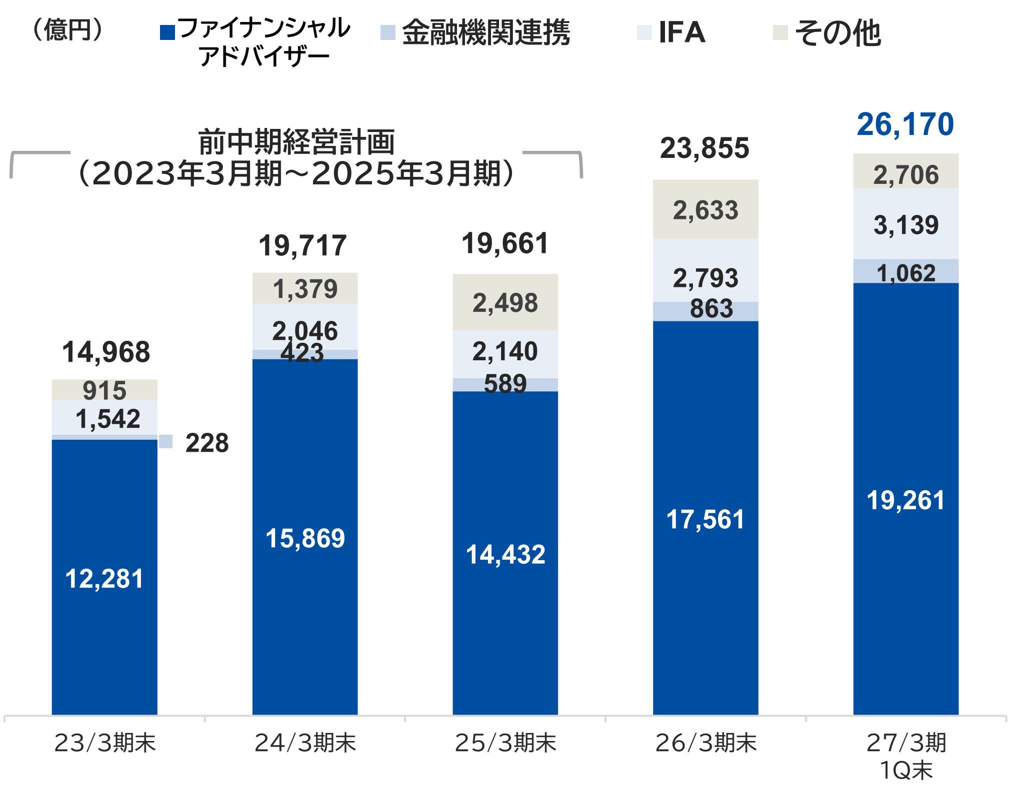
- 金融商品販売を本業としないIFA業者（主に保険代理店）や預金金融機関をサポート
- 資産形成層のお客さまの積立投資口座の獲得と積立金額の増加に取り組む
- 新たな顧客基盤の拡大を図る

2027年3月期1Q

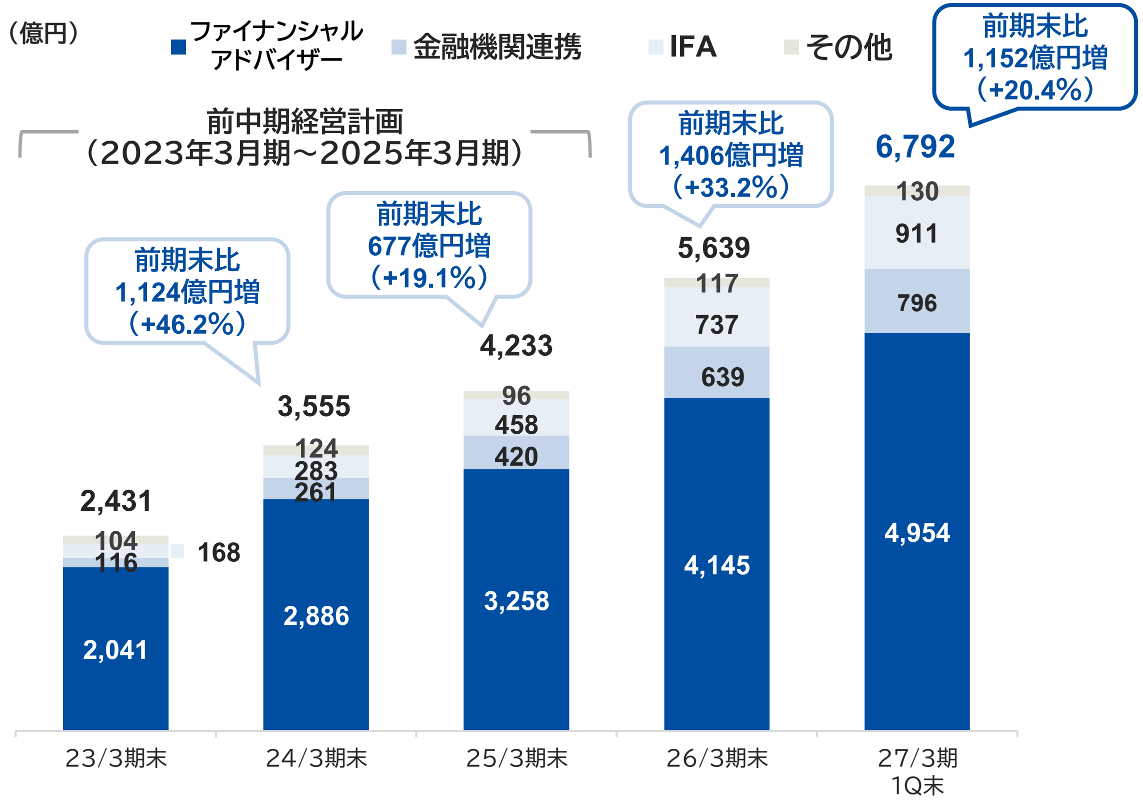
決算概要(事業別)： 証券事業 部門別 預り資産の状況

- 総預り資産及びストック商品預り資産は、現中期経営計画(２０２６年３月期～２０２８年３月期)の１年目となった２０２６年３月期に前中期経営計画を上回るペースで増加
- 中期経営計画２年目となる２０２７年３月期の第１四半期(２０２６年６月)末は、すべての部門において、総預り資産及びストック商品預り資産が前期(２０２６年３月期)末より増加

部門別 総預り資産



部門別 ストック商品預り資産



▶商品別の内訳はP.18をご参照ください

2027年3月期1Q

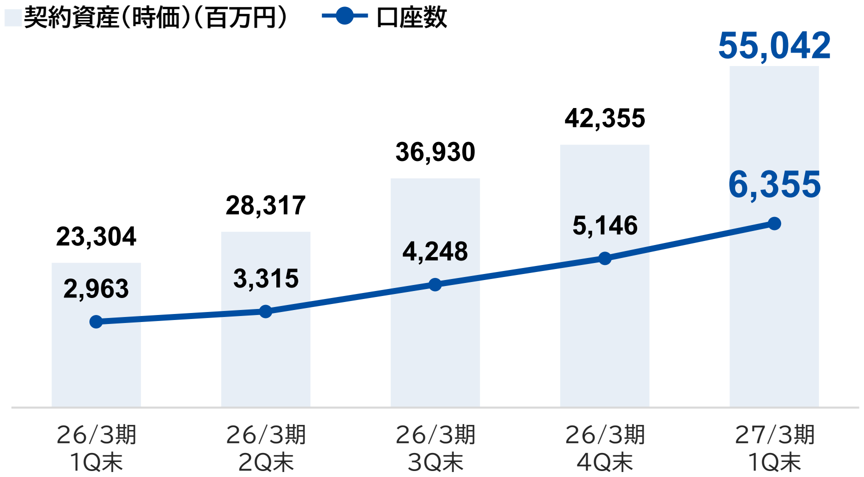
決算概要（事業別）： 証券事業 投資一任契約資産（ラップ商品預り資産）の状況

アイザワ証券グループ

ゴールベースアプローチ（GBA）型営業を徹底した結果、GBA型ラップサービス「スマイルゴール」の契約資産は前年同期（2026年3月期1Q）末比317億円増加（136.2％増）

契約資産（時価）（百万円）、口座数（件）		26/3期 1Q	26/3期 2Q	26/3期 3Q	26/3期 4Q	27/3期 1Q	26/3期1Q比 増減率	26/3期4Q比 増減率
スマイルゴール	契約資産（時価）	23,304	28,317	36,930	42,355	55,042	+136.2%	+30.0%
	口座数	2,963	3,315	4,248	5,146	6,355	+114.5%	+23.5%
ブルーラップ	契約資産（時価）	33,325	35,008	38,710	38,143	41,380	+24.2%	+8.5%
	口座数	1,440	1,415	1,443	1,491	1,532	+6.4%	+2.7%
ファンドラップ	契約資産（時価）	48,992	48,732	48,552	46,027	48,105	△1.8%	+4.5%
	口座数	5,021	4,780	4,531	4,354	4,194	△16.5%	△3.7%
合計	契約資産（時価）	105,623	112,059	124,194	126,525	144,528	+36.8%	+14.2%
	口座数	9,424	9,510	10,222	10,991	12,081	+28.2%	+9.9%

ゴールベースアプローチ型ラップサービス（愛称:スマイルゴール）



契約資産（時価）
26/3期1Q末比
317億円増
（+136.2%）

口座数
26/3期1Q末比
3,392件増
（+114.5%）

ラップサービス

スマイルゴール	お客さま一人ひとりの目標（ゴール）から逆算して考えるゴールベースアプローチ型ラップサービス アフターフォローを通じてお客さまとそのご家族と長期的なリレーションを築きます
ブルーラップ	日本株の投資一任運用サービス ・アイザワSMAスーパーブルーラップ ・アイザワSMAブルーラップ（新規の取扱い中止）
ファンドラップ（新規の取扱い中止）	国際分散投資により、運用・管理する一任運用サービス

投資事業

有価証券、不動産、成長企業に対して自己投資を行う
投資資産からの安定収益の確保を目指し、グループ連結業績の安定化と資産収益性向上に貢献する
もうひとつの柱

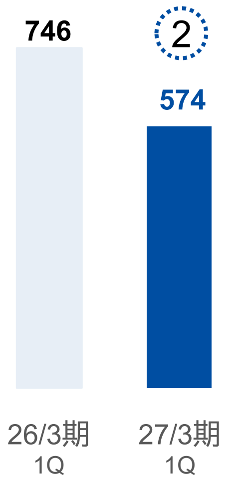
アイザワ・インベストメンツ株式会社

営業収益

（百万円）

税引前利益

（百万円）



（百万円）	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年同期比増減率
営業収益	168	**150**	△10.6%
税引前利益	746	**574**	△23.0%

投資方針

- 各資産の特性に応じた収益の獲得により、中期的な投資収益の極大化を目指す
- 上場株式、不動産資産で利益を計上しながら、非上場資産で中期的な利益の最大化を目指す

投資事業における投資有価証券の売却益（特別利益）

2026年4月～2026年6月 **5**億**42**百万円

投資有価証券売却益（特別利益）の計上により、2027年3月期1Qの投資事業における税引前利益は5億74百万円と、グループ連結純利益に貢献

1. アイザワ・インベストメンツの投資先ファンドからの収益計上が少なかったため、営業収益は前年同期（2026年3月期1Q）比10.6%減の1億50百万円
2. 投資有価証券売却益（特別利益）5億42百万円を計上し、税引前利益は5億74百万円

貸借対照表 – [連結]

資産の部(百万円)	26/3期末	27/3期1Q末	増減率
流動資産	81,770	91,281	+11.6%
現金・預金	24,239	31,883	+31.5%
預託金	27,008	29,428	+9.0%
営業投資有価証券	10,949	11,138	+1.7%
信用取引資産	15,306	13,514	△11.7%
その他の流動資産	4,266	5,316	+24.6%
固定資産	42,554	46,117	+8.4%
有形固定資産	11,247	11,305	+0.5%
投資その他の資産	31,265	34,773	+11.2%
投資有価証券	28,532	31,824	+11.5%
資産合計	124,324	137,398	+10.5%

主なポイント

現金・預金	預り金の増加により現金・預金が増加
短期社債	将来の成長に必要な資金を機動的に調達できる体制を構築することを目的として、無担保社債を発行
純資産	保有株式の上昇によってその他有価証券評価差額金が増加

負債・純資産の部(百万円)	26/3期末	27/3期1Q末	増減率
負債の部			
流動負債	61,853	74,014	+19.7%
信用取引負債	2,353	1,594	△32.3%
顧客からの預り金	21,147	25,112	+18.7%
その他の預り金	9,182	21,210	+131.0%
短期借入金	7,512	7,512	+0.0%
短期社債	12,085	12,085	-
固定負債	11,797	12,445	+5.5%
長期借入金	5,315	5,229	△1.6%
負債合計	73,837	86,663	+17.4%
純資産の部			
株主資本合計	35,321	34,181	△3.2%
利益剰余金	27,925	26,775	△4.1%
その他の包括利益累計額	12,163	13,683	+12.5%
その他有価証券評価差額金	11,174	12,620	+12.9%
純資産合計	50,486	50,734	+0.5%
負債・純資産合計	124,324	137,398	+10.5%

株主還元方針

アイザワ証券グループ

2024年4月26日に公表したとおり、2025年3月期から2028年3月期の間、
配当と自己株式取得による株主還元を総額200億円以上実施する

普通配当及び自己株式取得の方針

総還元性向（連結ベース）
50%以上

株主資本配当率（DOE）
2%程度を上回る

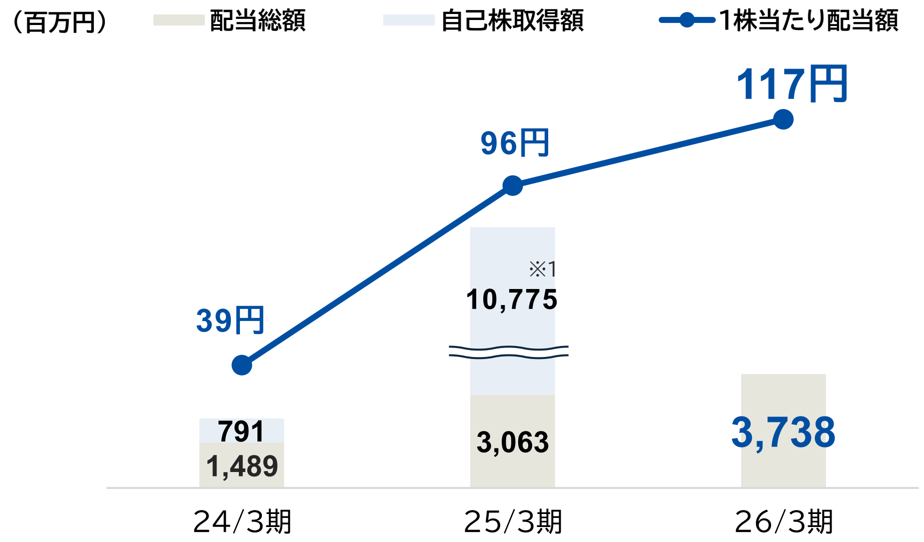
※総還元性向：（自己株取得金額＋普通配当総額）÷純利益　※DOE：普通配当金額÷株主資本

特別配当※2の実施方針

1株当たり　年間**70円**

2025年3月期～2028年3月期

株主還元の推移



	24/3期	25/3期	26/3期
普通配当 DOEの推移	3.32%	2.05%	4.28%
普通配当＋特別配当 DOEの推移	―	4.37%	10.65%

〈参考〉

	1株当たり配当金								
	中間配当金			期末配当金			年間配当金		
	普通配当	特別配当	合計	普通配当	特別配当	合計	普通配当	特別配当	合計
2025年3月期	13円	35円	48円	13円	35円	48円	26円	70円	96円
2026年3月期	13円	35円	48円	34円	35円	69円	47円	70円	117円
2027年3月期	未定	35円（予定）	未定	未定	35円（予定）	未定	未定	70円（予定）	未定
2028年3月期	未定	35円（予定）	未定	未定	35円（予定）	未定	未定	70円（予定）	未定

※1 2025年3月期に自己株式の取得（取得株数6,163,900株、取得価額の総額10,775,065,200円）を実施
※2 特別配当の金額は、2024年4月26日時点で入手可能な情報に基づく一定の前提（仮定）及び将来の予測等に基づき見込んでいる金額であり、今後、分配可能額規制その他の法令上の規制や経営環境の変化等の事情により変動する可能性があります。

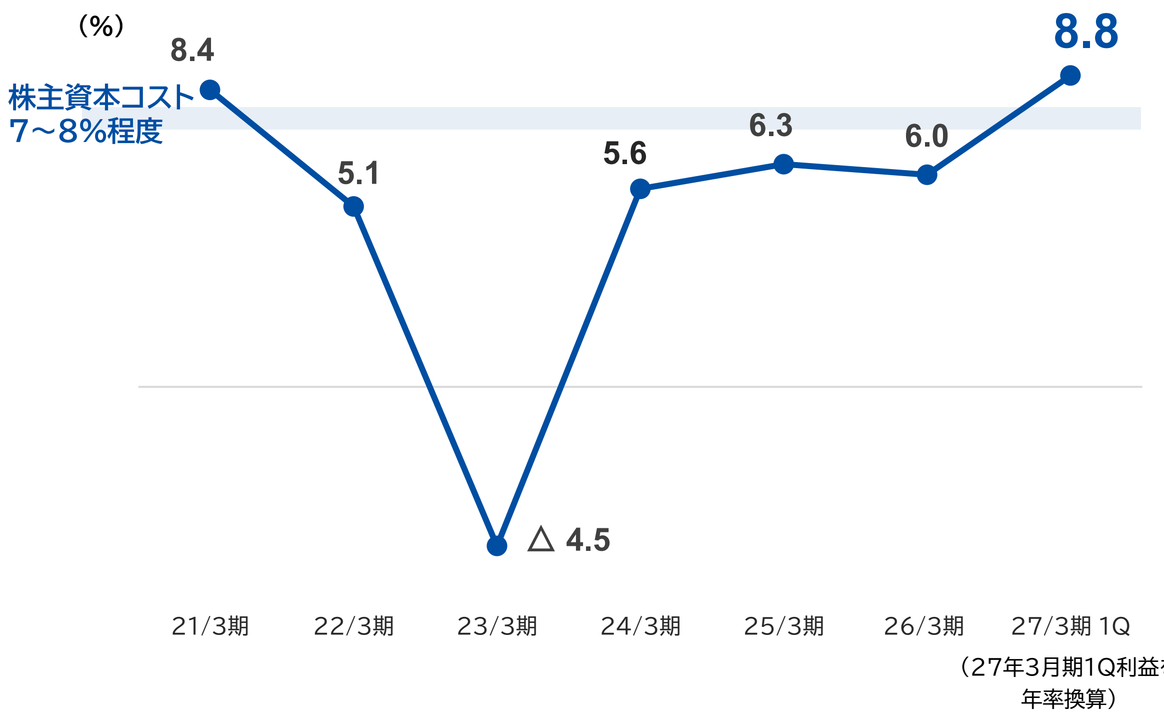
ハイライト

２０２７年３月期１ＱのＲＯＥ（年率換算）は８.８％となり、ＫＰＩ目標（８％以上）に向けて順調な進捗となっているが、ＰＢＲは1倍を下回っているため、事業構造・収益構造の変革を通じて中長期的な企業価値を向上させることで、株価並びにＰＢＲを継続的に向上させ、当社の資本コストや株価を意識した経営を体現していく

- ＲＯＥ…８.８％　（２０２７年３月期１Ｑ利益を年率換算）
- ＰＢＲ…０.９７倍（２０２６年６月末　１株当たり純資産1,５３４.７１円 株価1,４９５円）

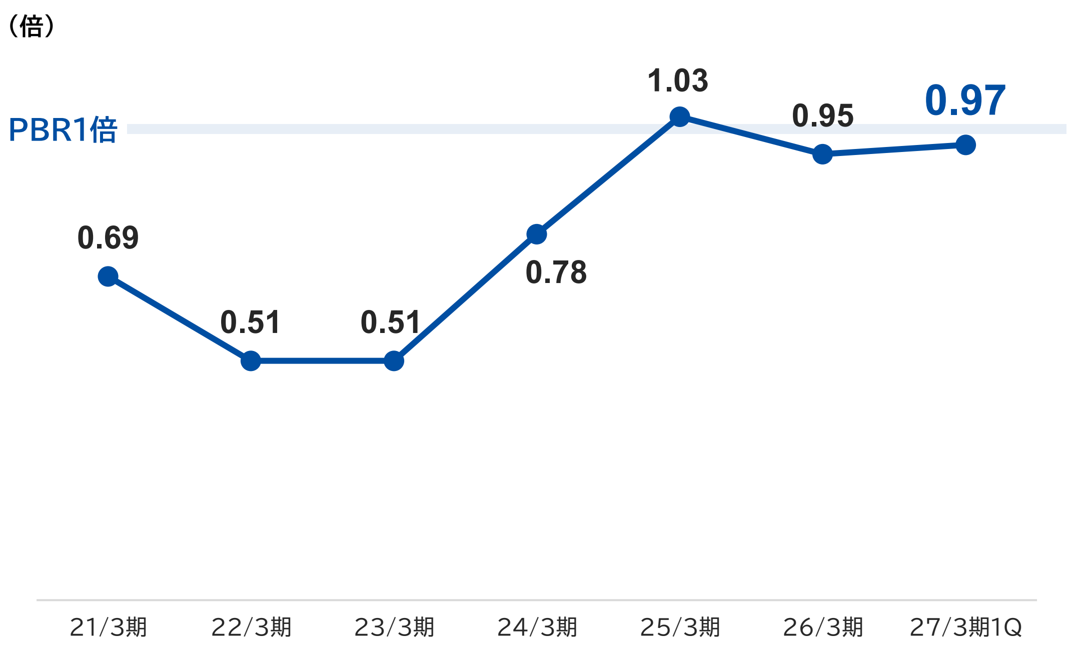
目標水準到達

ROEの推移



目標未到達

PBRの推移

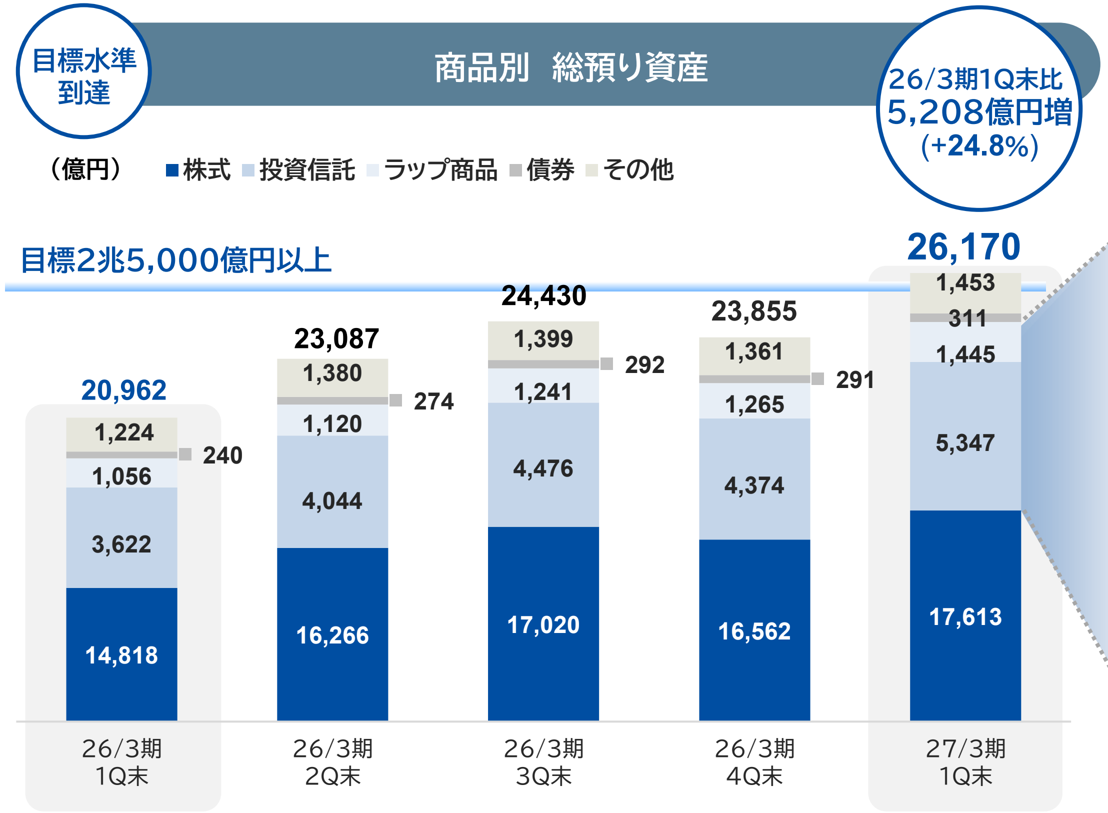


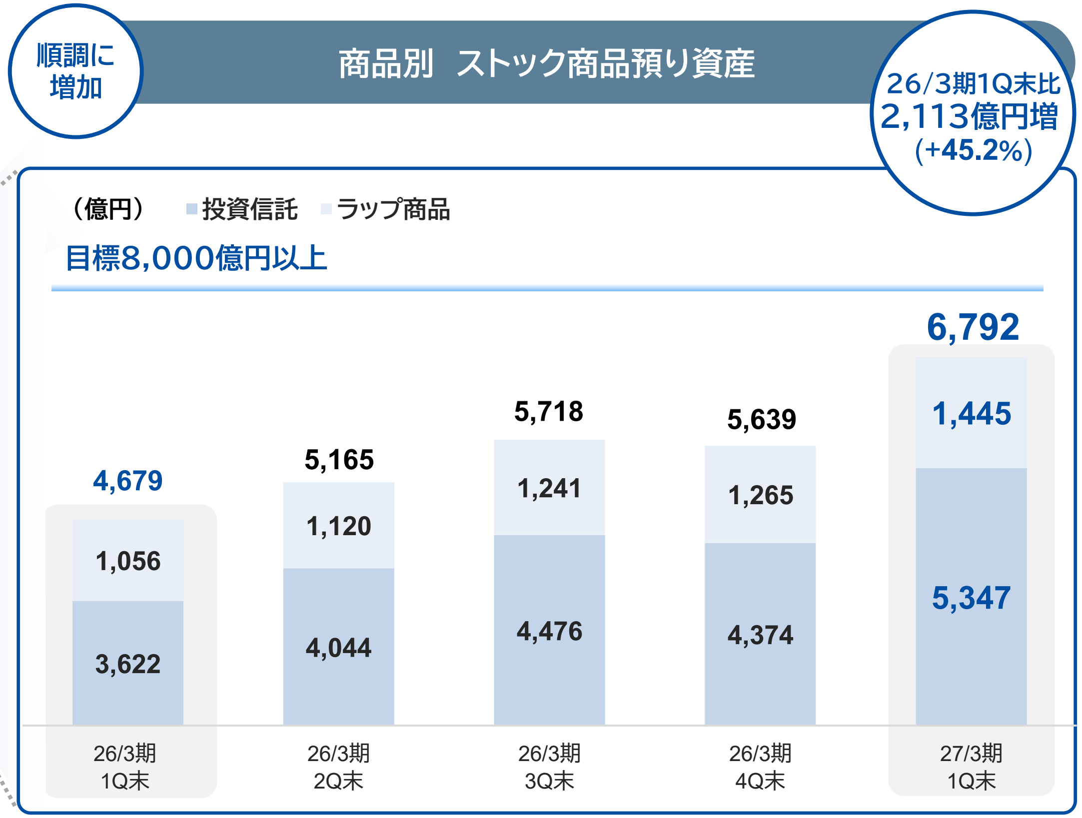
預り資産(商品別) – [アイザワ証券株式会社単体]

ハイライト

- 総預り資産は、ゴールベースアプローチ型営業とプラットフォームビジネス※の推進に加え相場の追い風もあり、前年同期(2026年3月期1Q)末比5,208億円増加(24.8%増)の2兆6,170億円となり、KPI目標到達
- ストック商品(投資信託とラップ商品)預り資産に関しても、上記の取組みにより同2,113億円増加(45.2%増)

※プラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者(IFA業者)や預金金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス





重要KPI

実質ストック収益 実質販管費カバー率 – [アイザワ証券株式会社単体]

アイザワ証券グループ

ハイライト

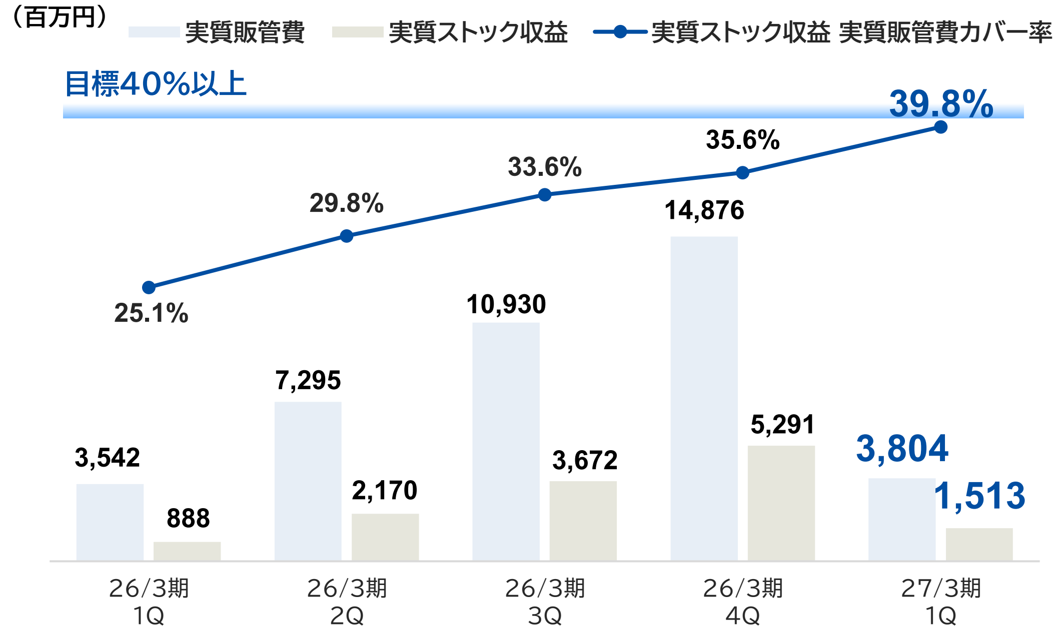
2027年3月期1Qの実質ストック収益※1 実質販管費※2カバー率は39.8%となり、前期(2026年3月期)比4.2pt増

- 実質販管費は、前年同期(2026年3月期1Q)より2億61百万円増の38億4百万円
- 実質ストック収益は、信託報酬及びラップ商品の成功報酬の増加に伴い、同6億24百万円増の15億13百万円

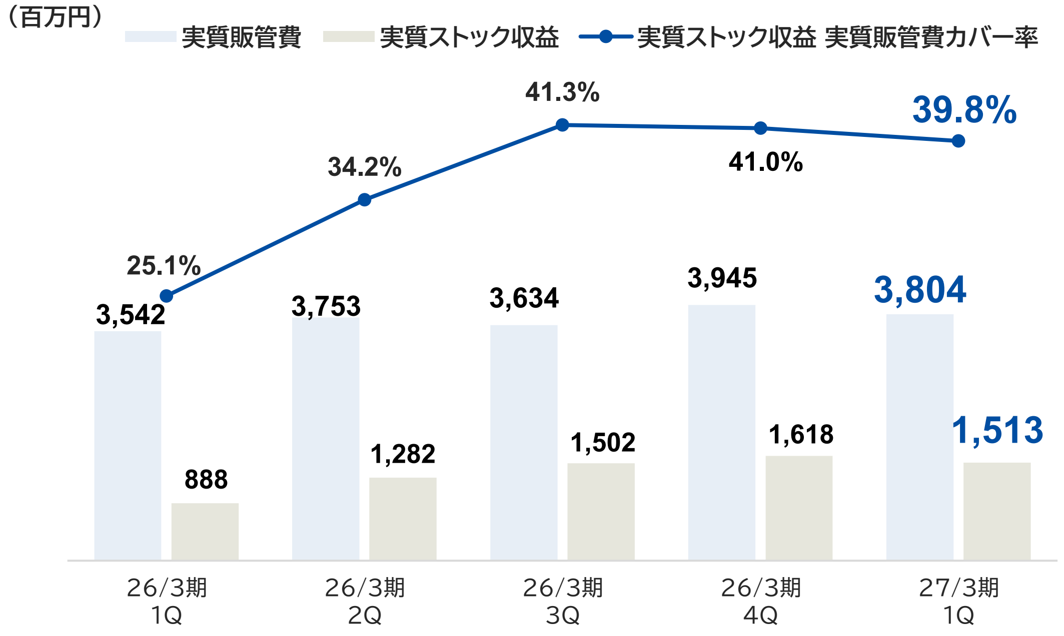
※1 実質ストック収益:信託報酬とラップ報酬の合計額から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料分を除外した収益額　※2 実質販管費:アイザワ証券の販売費・一般管理費から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料を除外した額

順調に増加

実質ストック収益 実質販管費カバー率の推移(年度累計)



実質ストック収益 実質販管費カバー率の推移(四半期別)



- 持続的な成長と中長期的な企業価値向上のため、人的資本への投資を拡大しており、3年連続のベースアップを実施
- 長期的なブランド価値の確立を図るため、TVCM放映を開始

給与水準の引き上げ

足元、物価上昇や社会環境の変化が続く中で、社員一人ひとりの生活環境にも大きな影響が生じています。社員が安心して働ける職場環境があってこそ、持続的な企業価値向上(持続的な収益性・資本効率の向上)が可能になると考えています。

以上の観点から、2026年4月1日より全社員(正社員、嘱託社員、契約社員を含む)を対象として管理職で5,000円、非管理職で12,000円の月額賃金改定を実施いたしました。今回の賃金改定及び定期昇給による引き上げ幅は全体で平均5.3%となります。なお、直近3年間では合計18.1%の引き上げとなります。

	2024年度	2025年度	2026年度	合計
昇給率	7.8%	5.0%	5.3%	18.1%

TVCM放映

認知拡大とブランドイメージ向上を図るため、2026年4月より山口県と静岡県にてCM放映を開始しました。

当社が目指す「伴走者」としての姿勢を表現したCM動画を通して、長期的なブランド価値の確立を図ってまいります。

YouTubeでのCM配信も2026年7月より開始しました。

決算説明資料 2027年3月期 第1四半期

Appendix

アイザワ証券グループ

商号	アイザワ証券グループ株式会社
所在地	〒105-7307 東京都港区東新橋一丁目9番1号　東京汐留ビルディング
連絡先	03-6852-7744
代表者	代表取締役社長 社長執行役員　藍澤　卓弥
創業年月日	1918年(大正7年)7月7日 （1933年(昭和8年)10月3日 設立）
資本金	80億円
従業員数(連結)	921名 ※2026年3月末時点

01

ゴールベース
アプローチ型営業

×

一体的に
価値を提供

ソリューション
サービス

ゴールベースアプローチ型営業により、お客さまのライフプランに寄り添い、お客さまごとに達成したいゴールに向けたプランをご提供し、個別売買にとどまらないトータルサポートで資産運用・資産形成を伴走支援いたします。

個人の相続、経営者の事業承継、法人のビジネス拡大、地域の課題等の幅広いニーズに対応し、個人・法人のお客さまの想いを叶えるために高度なノウハウを持つ専門家と連携し、オーダーメイド型のコンサルティングを提供いたします。

02

プラットフォーム
ビジネス

ライフプランの実現に向けて伴走者を必要とするお客さまを有する、金融商品販売を本業としないIFA業者さまや金融機関さまに対し、金融商品販売に有益な情報提供とサポートを行うとともに、システム等を提供いたします。

中期経営計画(2025年4月~2028年3月)の骨子

企業理念

Purpose
私たちの存在意義

より多くの人に
より豊かな生活を

Vision
私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとそのご家族の
人生の伴走者となる

Values
私たちが大切にする価値観

チャレンジ	リレーションシップ	プロフェッショナリズム	チームワーク
行動力	信頼	誠実	調和
成長	思いやり	責任	敬意
変革	安心	使命感	結束

事業戦略

- 証券事業の変革
- 投資事業のグレードアップ
- 運用事業の再構築

経営機能強化

- コンプライアンスの強化
- 人的資本投資の取組強化
- 生産性の向上
- リスク管理の強化
- サステナビリティ推進

株主還元方針

特別配当	2026年3月期~2028年3月期まで 特別配当(年間1株70円)を実施
普通配当&自己株取得	前中期経営計画の方針を継続 普通配当及び自己株式取得は総還元性向50%以上、普通配当は株主資本配当率(DOE)2%を超えることを基本方針とする

KPI 2028年3月期達成目標

ROE(自己資本利益率)	女性管理職比率	エンゲージメントスコア	ストック商品預り資産	総預り資産	実質ストック収益実質販管費カバー率
8%以上	15%以上	80%以上	8,000億円以上	2兆5,000億円以上	40%以上

企業価値向上

資本コストや
株価を意識した経営

企業理念

Purpose
私たちの存在意義

より多くの人に
より豊かな生活を

Vision
私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じてお客さまとそのご家族の人生の伴走者となる

Values
私たちが大切にする価値観

チャレンジ | リレーションシップ | プロフェッショナリズム | チームワーク

アイザワ宣言
お客さま、株主の皆さま、社会、従業員の皆さんへのコミットメント

人事ビジョン

社員一人ひとりがやりがいを持って活き活きと働ける会社を創ります

当社は、社員一人ひとりが“アイザワ人材”として、自ら考え自律的に行動し、新しい価値を創造する“挑戦”を支援します

人事の基本的な考え方

社員一人ひとりが「目指す社員像」となるよう公正な人事制度を策定する

- 働きがい
  自律的にキャリアを形成できるような制度の構築
- 働きやすさ
  互いに認め合い（共感力を高める）、安心して働ける職場環境づくり

人事施策

経営（人事）・現場・社員が三方よしとなる

3つのバランスが重要

経営（人事） management
現場 field
社員 employee

目指す社員像

アイザワ人材

当社が大切にする価値観であるValues（チャレンジ、リレーションシップ、プロフェッショナリズム、チームワーク）を体現している人材

企業理念

Purpose
私たちの存在意義

より多くの人に　より豊かな生活を

Vision
私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとそのご家族の人生の伴走者となる

Values
私たちが大切にする価値観

チャレンジ ｜ リレーションシップ ｜ プロフェッショナリズム ｜ チームワーク

アイザワ宣言

お客さまへ
私たちはお客さまの未来を見据えた
金融サービスを提供します

解決を目指す社会課題

資産格差の是正／高齢化社会への対応／
資産形成、相続・資産承継支援

株主の皆さまへ
私たちは持続的な成長を通じて
企業価値向上に努めます

解決を目指す社会課題

ガバナンス体制の強化／資産収益性の向上／
適切な開示による透明性の確保

社会へ
私たちは地域との繋がりを大切にし
社会の発展に貢献します

解決を目指す社会課題

地域経済の活性化／金融リテラシーの向上／
環境の保全

従業員の皆さんへ
私たちは社員一人ひとりを尊重し
成長と挑戦を後押しします

解決を目指す社会課題

多様性の尊重／成長できる機会の創出／
安心して働ける職場環境の構築

サステナビリティ推進

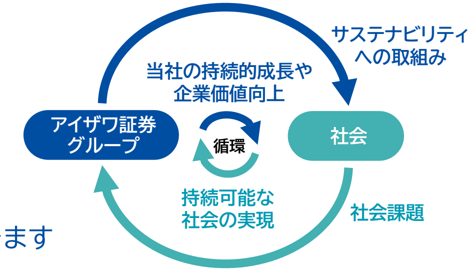
サステナビリティ基本方針
地域社会に伴走し　より多くの人と
地域とともに成長していく

マテリアリティ
- さらなる100年に向け変革を重ね選ばれつづける会社へ
- ステークホルダーとの対話に努めより信頼される存在へ
- 金融リテラシー教育を通じて安心できる暮らしの実現へ
- 社会の一員として使命感をもつ伴走者へ
- 環境と調和のとれた地域社会を次世代へ
- 互いの価値観に敬意を持ち自律的成長を支援できる会社へ

中期経営計画（2025年4月～2028年3月）

中長期的な企業価値向上を目指す

当社は、サステナビリティの取組みを誠実に積み上げていくことで、
社会課題の解決に寄与し、社会と当社が持続的に成長していく循環を構築していきます



資産の部(百万円)	26/3期末	27/3期1Q末	増減率
流動資産	81,770	91,281	+11.6%
現金・預金	24,239	31,883	+31.5%
預託金	27,008	29,428	+9.0%
営業投資有価証券	10,949	11,138	+1.7%
トレーディング商品	135	158	+16.7%
約定見返勘定	1,521	1,924	+26.4%
信用取引資産	15,306	13,514	△11.7%
信用取引貸付金	15,128	13,284	△12.2%
立替金	278	455	+63.5%
その他の流動資産	2,330	2,778	+19.2%
固定資産	42,554	46,117	+8.4%
有形固定資産	11,247	11,305	+0.5%
賃貸不動産	9,299	9,323	+0.3%
無形固定資産	40	38	△3.8%
投資その他の資産	31,265	34,773	+11.2%
投資有価証券	28,532	31,824	+11.5%
資産合計	124,324	137,398	+10.5%

負債・純資産の部(百万円)	26/3期末	27/3期1Q末	増減率
負債の部			
流動負債	61,853	74,014	+19.7%
トレーディング商品	48	101	+109.7%
信用取引負債	2,353	1,594	△32.3%
信用取引借入金	2,033	1,193	△41.3%
有価証券担保借入金	2,009	596	△70.3%
預り金	30,329	46,322	+52.7%
顧客からの預り金	21,147	25,112	+18.7%
その他の預り金	9,182	21,210	+131.0%
受入保証金	4,324	3,419	△20.9%
短期借入金	7,512	7,512	+0.0%
短期社債	12,085	12,085	-
固定負債	11,797	12,445	+5.5%
長期借入金	5,315	5,229	△1.6%
繰延税金負債	5,986	6,714	+12.2%
特別法上の準備金	187	203	+8.5%
金融商品取引責任準備金	187	203	+8.5%
負債合計	73,837	86,663	+17.4%
純資産の部			
株主資本合計	35,321	34,181	△3.2%
利益剰余金	27,925	26,775	△4.1%
その他の包括利益累計額	12,163	13,683	+12.5%
その他有価証券評価差額金	11,174	12,620	+12.9%
非支配株主持分	3,001	2,870	△4.4%
純資産合計	50,486	50,734	+0.5%
負債・純資産合計	124,324	137,398	+10.5%

(百万円)	26/3期 1Q	26/3期 2Q	26/3期 3Q	26/3期 4Q	27/3期 1Q	26/3期1Q比 増減率	26/3期4Q比 増減率
セグメント別営業収益連結計	4,242	5,695	5,609	5,426	5,812	+37.0%	+7.1%
証券事業	4,074	5,417	5,446	5,189	5,660	+38.9%	+9.1%
投資事業	168	236	185	242	150	△10.6%	△38.1%
運用事業	42	78	27	46	40	△5.6%	△13.5%
その他調整	△42	△37	△ 49	△ 52	△ 38	-	-
セグメント別営業利益連結計	△576	349	319	△ 66	238	-	-
証券事業	△258	525	625	162	483	-	+196.9%
投資事業	△137	△183	△ 190	△ 211	△ 93	-	-
運用事業	△131	△51	△ 111	△ 71	△ 66	-	-
その他調整	△48	58	△ 3	52	△ 84	-	-
セグメント別税引前利益連結計	388	1,172	1,462	1,132	1,297	+233.7%	+14.5%
証券事業	△227	509	498	87	474	-	+444.4%
投資事業	746	396	477	938	574	△23.0%	△38.8%
運用事業	△138	△50	△ 102	△ 52	△ 65	-	-
その他調整	8	317	588	160	314	-	+96.4%

（百万円）	26/3期 1Q	26/3期 2Q	26/3期 3Q	26/3期 4Q	27/3期 1Q	26/3期1Q比 増減率	26/3期4Q比 増減率
営業収益	4,242	5,695	5,609	5,426	**5,812**	+37.0%	+7.1%
受入手数料	3,273	4,355	4,479	4,605	**4,902**	+49.8%	+6.5%
委託手数料	1,432	1,960	1,976	1,842	**2,203**	+53.8%	+19.6%
引受・売出	1	32	0	1	**2**	+8.4%	+43.9%
募集・売出	785	834	798	895	**863**	+9.9%	△3.6%
その他	1,053	1,527	1,703	1,865	**1,833**	+74.0%	△1.7%
トレーディング損益	647	813	699	313	**512**	△20.9%	+63.2%
株券等	556	696	599	225	**405**	△27.2%	+79.4%
債券等	5	39	36	40	**37**	+571.8%	△7.1%
為替等	85	77	62	47	**69**	△18.3%	+46.2%
金融収益	158	294	251	270	**253**	+59.6%	△6.4%
その他の営業収益	162	231	179	236	**144**	△10.9%	△38.9%

AIZAWA SECURITIES GROUP CO., LTD.

(百万円)	26/3期 1Q	26/3期 2Q	26/3期 3Q	26/3期 4Q	27/3期 1Q	26/3期1Q比 増減率	26/3期4Q比 増減率
営業収益	4,242	5,695	5,609	5,426	5,812	+37.0%	+7.1%
株式	2,181	2,825	2,755	2,247	2,816	+29.1%	+25.3%
委託手数料	1,432	1,960	1,976	1,842	2,203	+53.8%	+19.6%
トレーディング損益・金融収益等	748	864	778	405	612	△18.2%	+51.2%
投資信託	1,401	1,572	1,607	1,734	1,785	+27.4%	+2.9%
募集手数料	785	834	798	895	863	+9.9%	△3.6%
信託報酬等	615	737	808	838	921	+49.7%	+9.9%
ラップ商品	348	647	804	925	821	+135.7%	△11.3%
固定報酬・信託報酬	276	291	313	330	350	+26.8%	+6.2%
成功報酬	72	355	491	595	470	+552.0%	△20.9%
債券	7	41	38	42	40	+416.5%	△5.7%
不動産	125	127	124	126	131	+4.3%	+3.8%
営業投資有価証券	36	103	55	110	13	△63.2%	△87.8%
その他	141	377	224	238	205	+45.0%	△14.0%

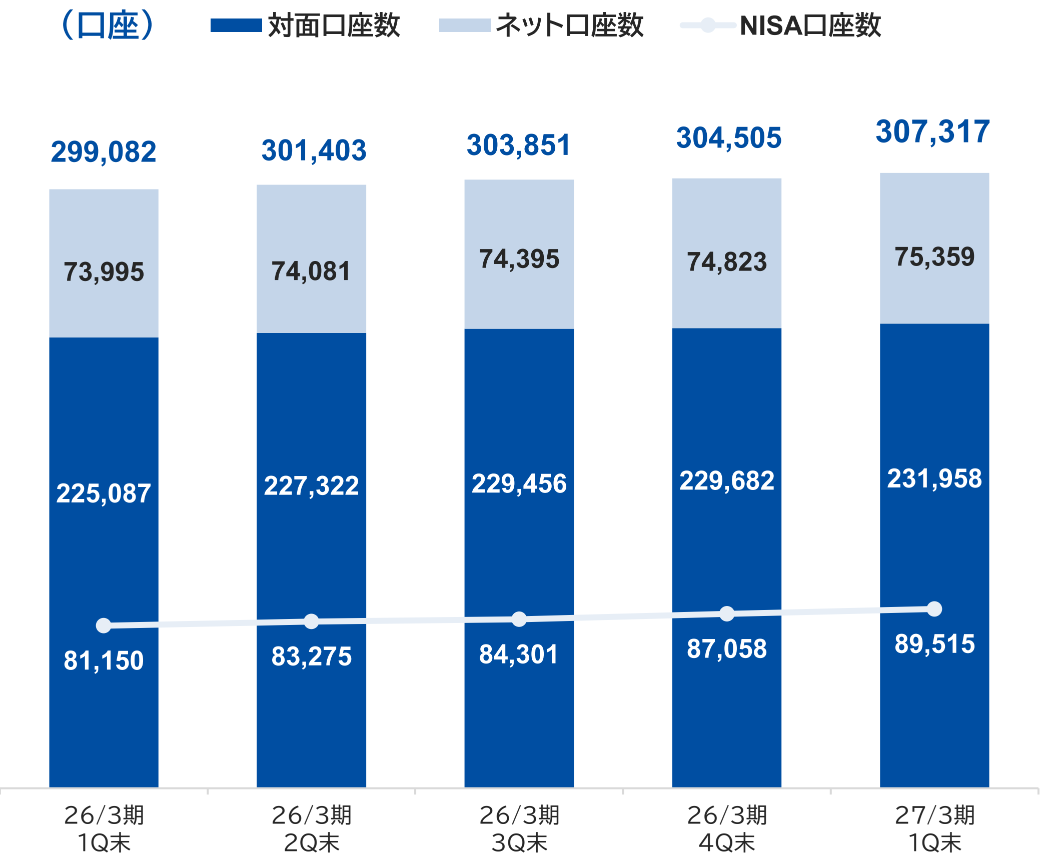
販売費・一般管理費、営業外損益、特別損益の内訳と推移 – ［連結］

（百万円）	26/3期 1Q	26/3期 2Q	26/3期 3Q	26/3期 4Q	27/3期 1Q	26/3期1Q比 増減率	26/3期4Q比 増減率
販売費・一般管理費	4,575	5,097	5,033	5,172	5,444	+19.0%	+5.3%
取引関係費	976	1,318	1,370	1,208	1,521	+55.8%	+25.9%
人件費	2,259	2,416	2,324	2,461	2,537	+12.3%	+3.1%
不動産関係費	373	373	343	393	349	△6.2%	△11.0%
事務費	686	686	693	738	710	+3.4%	△3.8%
減価償却費	81	85	79	154	92	+12.9%	△40.4%
租税公課	79	112	98	93	123	+56.7%	+32.0%
その他	118	105	123	121	109	△8.1%	△10.4%

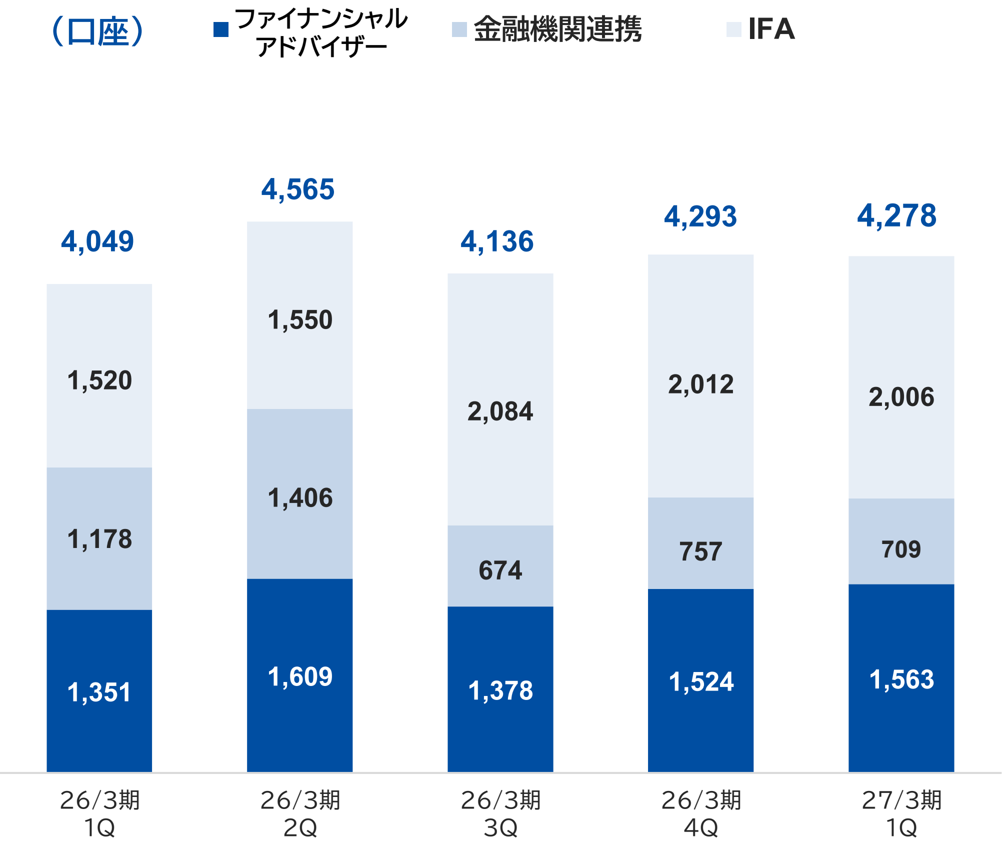
（百万円）	26/3期 1Q	26/3期 2Q	26/3期 3Q	26/3期 4Q	27/3期 1Q	26/3期1Q比 増減率	26/3期4Q比 増減率
営業外損益	238	96	178	125	208	△12.5%	+65.8%
営業外収益	299	157	240	204	291	△2.5%	+42.6%
営業外費用	60	60	61	78	82	+36.7%	+5.3%
特別損益	726	726	963	1,073	850	+17.1%	△20.8%
特別利益	726	734	1,241	1,162	866	+19.3%	△25.5%
特別損失	-	7	278	89	15	—	△82.1%

口座数の状況 –［アイザワ証券株式会社単体］

総口座数の内訳とNISA口座数の推移



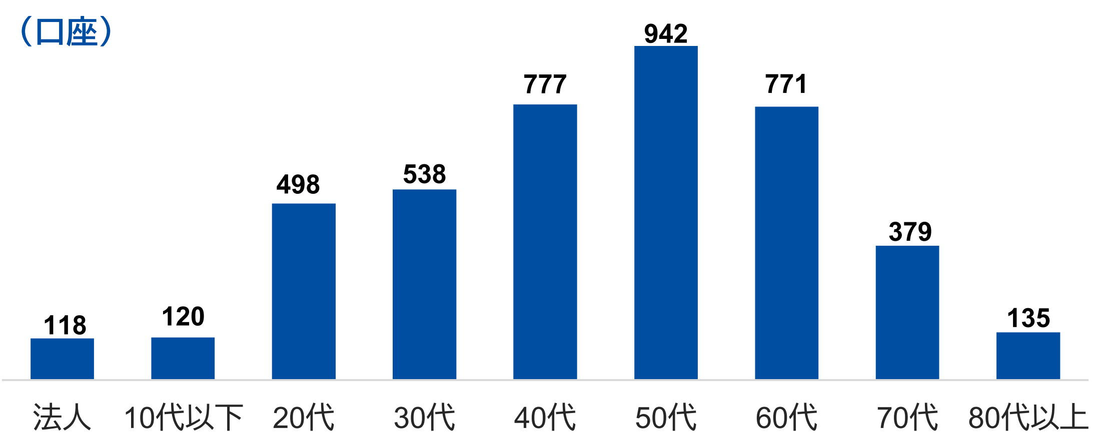
新規口座数の内訳と推移



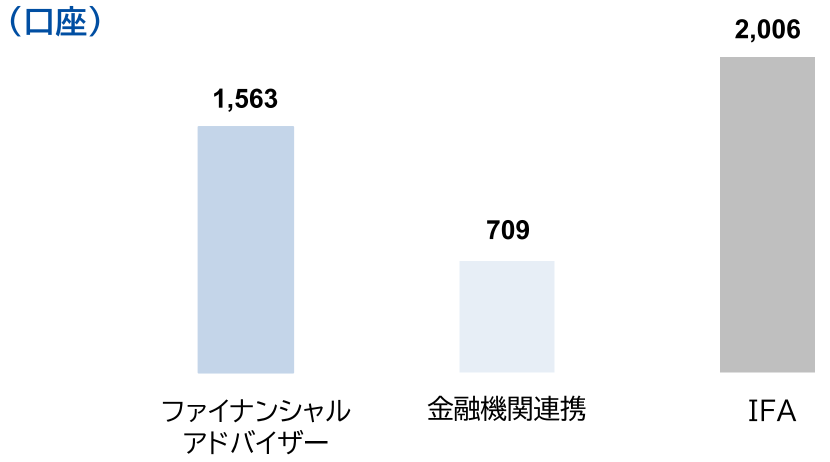
2027年3月期1Q 新規口座数（年代別、部門別内訳） − ［アイザワ証券株式会社単体］

アイザワ証券グループ

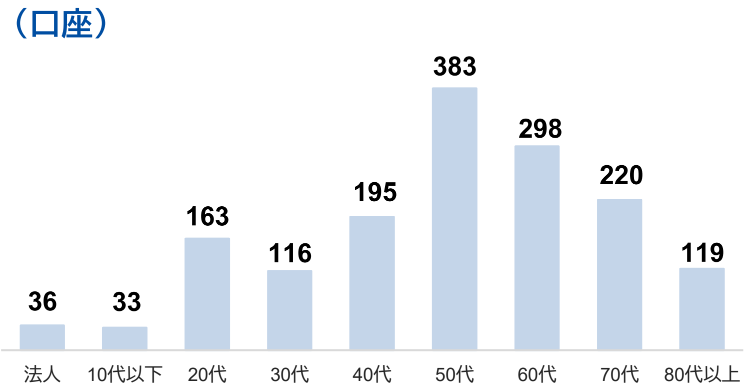
年代別新規口座数



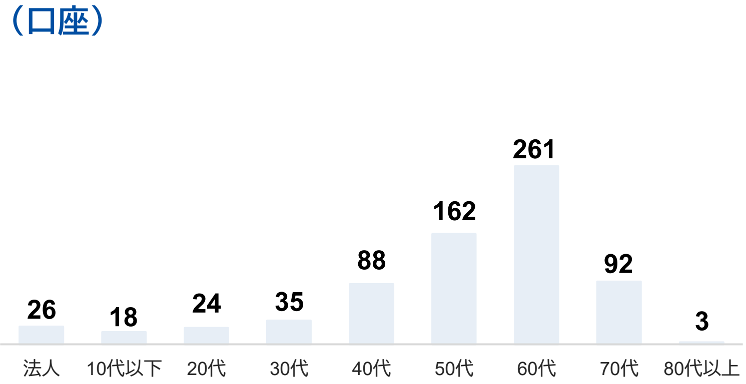
部門別新規口座数



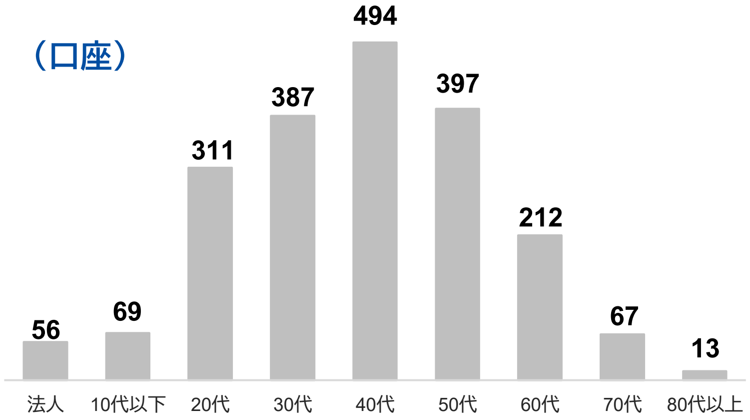
年代別新規口座数（ファイナンシャルアドバイザー）



年代別新規口座数（金融機関連携）



年代別新規口座数（IFA）



アイザワ証券グループ

お問合せ先

アイザワ証券グループ株式会社　経営企画部

E-MAIL ir@aizawa-group.jp
URL https://www.aizawa-group.jp/